

特集

出会いの効用。

人と人との出会いには想像をはるかに超えた発展性があることは、皆さんご存知のところでは、その「出会い」をもの作りの現場に持ち込んだらどうでしょう？  
いろんな分野の人が自由にもの作りに参画できたら...  
何か面白いことが生まれそうな気がしませんか？

鼎談

スバイラルチーフキュレーター  
兼アート・プロデュースマネージャー  
スバイラルチーフプランナー

篠崎彰大×岡田 勉・松田朋春

企業、アーティスト、科学の分野、それぞれにすごく面白いことが起きているので、

何とか結び付けられないかと考えたんです。(松田)

アーティストが下着を作りたくなるとすれば、

裸をもっと

キレイに

見せるものを作る自信があるからじゃないかな。(篠崎)

儲からなければ面白くない。

今どきのアーティストは

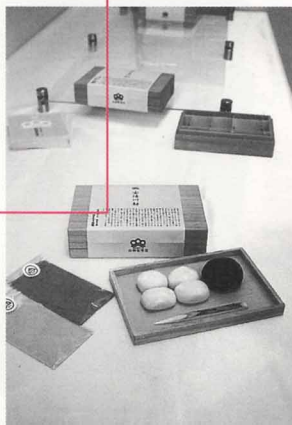
みんなそう思っていますよ。(岡田)



食は、コミュニケーション。

■ ランデヴァープロジェクト IN 静岡

静岡の地場産業を支える企業とランデヴァー参加メンバーが昨年春に出会い、五つの商品が生まれました。スバ  
イラルのランデヴァーに興味を持ち、「ぜひ、静岡で」と発起したのは静岡でマーケティングプランナーをしてい  
る富山達章氏。「今回の自分たちが持つ技術を本業以外のところで使えないか？」という問い掛けは、とてもい  
い挑戦だったとみんな思っています。もちろん途中では喧々諤々ありましたけど、アテイストとメーカーが対  
等な立場でもの作りに取り組み、学ぶものが多かったという声が寄せられています（富山氏）。商品に対する  
市場の反応もよく、今後はさらに行政も巻き込みながらプロジェクトを継続する予定だと。



インダストリアルデザイナー 御菓子舗

【安倍川餅】 酒井俊彦氏×株式会社松柏堂本店

本当においしい物を作りたいという発想で和菓子作りの常識を無視した  
作り方に挑戦した一品。『安倍川餅』の歴史から学び、日持ちのために使  
われていた砂糖は一切使わないなど、本物にトコトンこだわる酒井氏と、巧  
みな技、譲れないこだわりを持つ『松柏堂』の菓子職人が検討につぐ検討  
を繰り返して作り上げました。

「味はもちろんのこと、ここで僕が最もこだわったのは、もらってから食べ終  
わるまでどれだけ気持ち良い時間が演出できるかということ。持ち運び時、  
お餅が動かないように固定する仕切りは、箱を開けた時、上ぶたにくっつく  
ようになっています。お餅は桐の菓子器の上ですぐ食べられる状態で目の  
前に現れます。もらってうれしい、食べておいしい、あげてうれしい、そんな  
お菓子が作れたかったんです。そして、この『安倍川餅』を介して人と人との  
いい関係をつくったり、心地良い時間をつくる。そんな人と人とのコミュ  
ニケーションに作用できればうれしいじゃないですか」（酒井氏）。